

大阪は古代から続く水の都。

まちの人々の力で創り、受け継がれてきた水辺の歴史文化は、喪失期を経て、公民連携の力によって現在に再生されてきました。

先史〜1990年代まで

先史

海からできた大阪のまち

海水面は現在よりも1〜2m高く、現在の都心部のほとんどは海の底。上町台地だけが河内湾に突き出ていました。

古代

国際交易港・難波津からなにわ八十島へ

瀬戸内海に面した大阪は難波津と呼ばれ、京都や奈良の都の外港として世界とつながっていました。また、砂州から島々が形成された大阪はなにわ八十島とも呼ばれていました。

近世

なにわ八百八橋の繁栄

市街地は大阪城から西へ拡大。まちなかに張り巡らされた堀川は全国とつながり、日本の経済・文化の中心地になりました。

近代

大大阪の発展と地盤沈下

大正には大阪の人口が東京を超え、大大阪と呼ばれました。地下水を工業用水として汲み上げすぎたことから地盤沈下が進行しました。

戦後

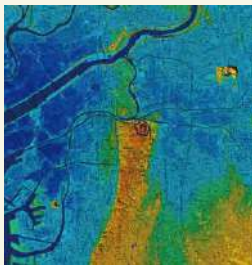
度重なる水害への対策と水辺の喪失

戦後、多くの堀川が埋め立てられ、水害対策として高い護岸が整備されました。高度経済成長期には水質悪化が問題になりました。

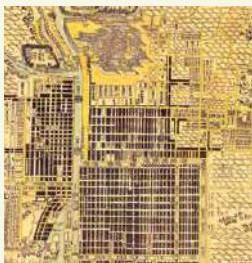
水都再生に向けて

公害への取り組みと水辺の再生へ

水質浄化の取り組みによって川の水質は改善していきました。水辺の価値が再認識され、暮らしを豊かにする親水空間の整備が徐々にはじまりました。



デジタル標高地形図 平成18年8月
(国土地理院ウェブサイト)



新板大坂之図
(大阪市立図書館デジタルアーカイブ)



航空写真 昭和23年12月30日
(国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス)

21世紀からの水都大阪再生

2030年に向けて



開かれた水辺の整備

2001年、内閣府の都市再生プロジェクトに採択されたことをきっかけに、水の都として大阪の都市再生がスタートしました。

オール大阪で参加型イベント

2009年、整備が進んだ中之島・水の回廊[※]全体で、「水都大阪2009」を開催。市民や企業の主体的な参加が進みました。

[※]市内の中心部を口の字に流れる堂島川・土佐堀川・東横堀川・道頓堀川・木津川のこと

水辺の魅力スポットの充実

2011年、規制緩和によって河川区域に水辺の魅力的な民間施設が次々とオープン。川とまちの接点が増えていきました。

万博を経て、次世代の水辺づくりへ

2025年、大阪・関西万博に合わせた水と光のウォータースhowerや万博会場への新航路など、新たな水辺の魅力が創出されました。

訪日外国人旅行者数 6,000万人時代到来へ[※]

コロナ禍によって落ち込んだインバウンドも回復し、ビッグプロジェクトによって国内外からの人の流れが変化していくいま、水都大阪でも持続可能な観光の実現が求められています。

[※]政府が掲げる観光ビジョンの2030年時の達成目標より

万博レガシーの継承

世界の人々と出会った大阪・関西万博の理念「いのち輝く未来社会のデザイン」を継承しながら、世界の中でもユニークな水の都として大阪を磨き上げていくことが求められています。

2031年
なにわ筋線開通

2030年
訪日外国人6,000万人
来阪外国人2,300万人
大阪IR開業

2028年
大阪城東部地区1.5期まちびらき

ビッグプロジェクトとインバウンドの増加

持続可能な共創の水辺 水都大阪

水辺は一人ひとりの可能性を最大限に引き出してくれる場所。

2025年大阪・関西万博の理念を受け継いだ私たちは、水辺を、多様な文化や考えを受容・尊重する共創の舞台にします。

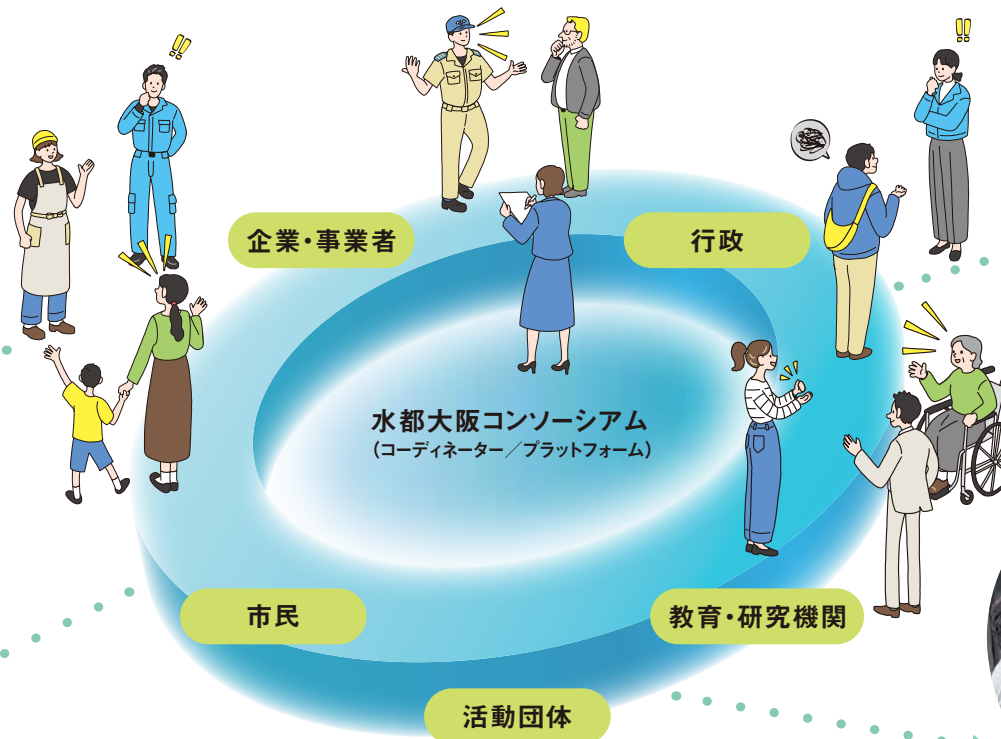
共創とは対話を通じて連携の輪を拡げ、ユニークなチャレンジや新しい価値を生み出すこと。

みんなの共創の積み重ねで「歴史文化」「魅力」「安全・環境」の持続可能性を高め、

市民の誇りと世界の憧れとなる、水都大阪の未来をつくっていきましょう。



お花見の時期に出現した水辺レストラン



水辺の夜景とにぎわいづくり



大阪で一番古い橋の下で水都の歴史勉強会



水辺で集めたキャップを油にリサイクル

みんなが対話を重ねて新しい価値が生み出されていきます

水都大阪ビジョン2030の詳細はこちらから! →



水都大阪ビジョン2030の構成

水都大阪ビジョンは、みんなで作る水都大阪の未来の姿です。
水都大阪コンソーシアムは、主体的にアクションに取り組み、実現をめざします。

ビジョン

持続可能な共創の水辺 水都大阪

ミッション

Ⅰ 歴史文化を受け継ぐ

まちの人々が共創し
水辺の発展を支えてきた
歴史を継承することによって
シビックプライドを醸成します

Ⅱ 水都大阪ならではの魅力向上

大阪の独自性や万博レガシー等を
活用して水辺を魅力アップし
水都大阪のブランドを高めます

Ⅲ 安全で快適な水辺環境づくり

築き上げてきた
安全・安心と環境を維持向上し
水都大阪のブランドを支えます

アクション

① 水都大阪ならではの
ブランディング・
魅力発信

② 舟運の活性化と
水辺エリアの
魅力向上

③ 水辺の安全と
環境を守る
取組みの推進

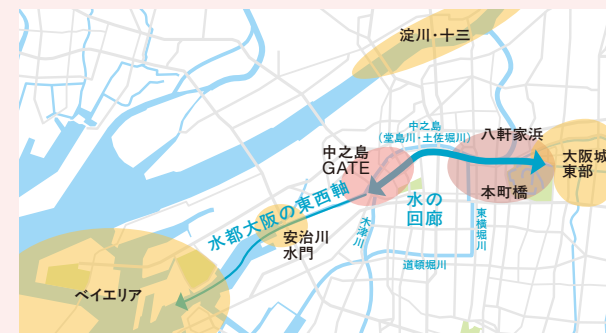
④ 水辺の
シンクタンク
機能の強化

⑤ プラットフォーム
機能の強化

取組みの範囲

水の回廊を中心に、東西軸と水の回廊の結節点で
重点的に取り組みます。また、ベイエリアや大阪城東部、
淀川・十三との連携も図ります。

- 重点エリア… 結節点となりハード整備が進展するエリア
- 連携エリア… 時機をとらえて連携するエリア



● 水都大阪コンソーシアムとは

水と光の魅力で世界の人々を惹きつける「水と光の首都大阪」の実現に向け、オール大阪での取組みを進めるため、2017年に設立された公民連携のプラットフォーム。

[構成団体] 大阪商工会議所、関西経済連合会、関西経済同友会、大阪府、大阪市、公益財団法人大阪観光局、大阪シティクルーズ推進協議会
発行年月: 2026年3月 発行元: 水都大阪コンソーシアム 大阪市住之江区南港北1丁目14-16 大阪府咲洲庁舎38階 TEL: 06-6210-9311



水都大阪
AQUA METROPOLIS OSAKA



水都大阪WEBサイト